

かぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 165 号

平成 28 年 12 月 15 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「増毛駅お別れセレモニー」

(写真撮影：旅と鉄道研究会)

教授就任のご挨拶……教育センター 佐藤 伸之… 2	室内合奏団秋のコンサート……………34
マヒドン大学研修プログラムで学んだこと	ギター部&JAZZ研究会合同クリスマスコンサート
—Elective Program in Tropical Medicineに参加して—	……………35
医学科第3学年 室田 美晴…………… 4	冬季休業期間中の事故防止について……………36
授業評価(平成28年度前期)…………… 6	学生団体代表者との懇談会を実施しました……………37
平成28年度 外国人留学生交流事業が実施されました	安否確認システムによる訓練を実施しました……………38
……………27	第165号表紙 ……………38
学生表彰式……………29	大学構内における駐車について……………39
AMU DANCE CRANK自主公演……………32	交通安全……………39
大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施	教員の異動……………40
……………33	今後のスケジュール……………40
課外活動物品の購入補助を行いました……………34	



教授就任のご挨拶

教育センター（医学教育分野別認証・新専門医制度担当）

教授 佐藤 伸之

学長補佐（医学教育分野別認証・新専門医制度担当）

兼務発令（学長政策推進室・第一内科）

IR室 副室長（教育）

平成28年11月10日付けで教育センター教授を拝命いたしました。

自己紹介をさせていただきますと帯広市で生まれ育ち、函館ラ・サール高校に進学し、昭和61年に旭川医大を8期生として卒業いたしました。学生時代は卓球部に所属し、平成20年からは卓球部の顧問を担当しております。

学生時代は、卓球部の部活に明け暮れておりましたが、3年生の生理学の蛙の心電図の実習から心電図に興味を持ち、そのような経緯から循環器内科医を志し第1内科初代故小野寺壮吉教授のもとでご薫陶を受けることになりました。昭和63年からは2年間藤田学園保健衛生大学心臓血管研究所、渡部良夫教授のもとで心臓電気生理学を学び、そのご縁でカルガリー大学で引き続き洞房結節、房室結節の電気生理学研究をさせていただきました。帰国後は第2代菊池健次郎教授のもとで、ご指導を受けました。菊池教授の教育理念は、general physicianとしての広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた包容力のある社会人の育成であり、また、頭から足先まで一貫した姿勢で観察、把握できる臨床能力を身につけることを教えていただきました。菊池教授のご在任中から第3代長谷部直幸教授のご就任の間、6年間医局長を務めさせて

いただき、この間、地域医療の大変さと医師派遣の難しさを実感いたしました。長谷部教授は菊池教授の教えを受け継ぎながら「総合力を兼ね備えた専門医」育成と同時に先進医学研究の融合を目指して教室づくりをされ、私は引き続き不整脈と高血圧の臨床研究に従事させていただきました。また、平成24年からは安全管理部に配属となり、医療安全の基礎を学ばせていただく大変貴重な機会をいただきました。

教育関連では、OSCEの胸部、バイタル責任者を平成18年から担当させていただいておりますが、平成27年に本学の新専門医制度対策チームリーダーを拝命し、内科のプログラム責任者と他科の専門医プログラムを推進する係を務めさせていただきました。

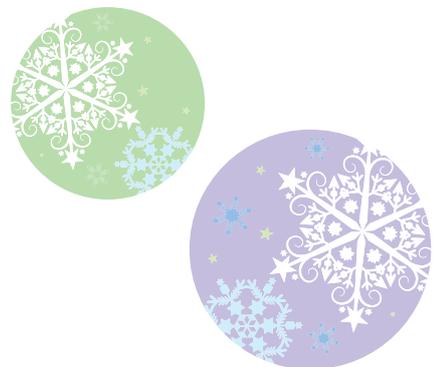
そのようなご縁から、この度教育センターで新専門医制度に備える役割を仰せつかり本役職を担当させていただくこととなりました。2015年12月には日本医学教育評価機構(JACME)が発足し国際基準に基づいた医学教育認証評価制度が始まりました(2023年問題と言われております)。今後本認証制度取得においても現教育センター、医学部教育部門のスタッフと連携して貢献してまいりたいと存じます。

内科に関しましては、内科の各分野の過度の

専門化に対する反省から、原点に戻りすべての領域を診ることのできる内科医を養成することを重点目標に掲げるに至り新専門医制度が開始されることとなりました。事実、初診で内科系疾患の患者を診察する際、主訴だけで自分のsubspecialtyと異なると判断される場合、他医を受診するよう促す医師が増えているのが現状であり、その結果、患者がたらいまわしにされるケースさえ生まれております。まず患者さんの訴えから内科医として可能な限りの診察、初期診断、初期治療を行い、そのうえで必要に応じて各subspecialtyの担当医に依頼できるような医師を目指す医学教育を行っていきたく存じます。本学はまた道北、道東の地域医療の中心となるセンター病院としての責務も課せられており、地域枠の学生も多く存在します。今後、卒前、卒後教育において、地域医療を担う医師を養成するために、内科専門医のみならず他科領域の先生方と連携しながら専門医研修ができるよう環境を整えていきたく存じます。合わせて、地域の病院との連携も強化していきたく考えております。

更に医学教育は近年の国際的認証評価に合わせ、診療参加型臨床実習から実践的な臨床研修へと展開し、キャリア形成できるシームレスな教育に移行しようとしています。医師として求められる資質もプロフェッショナリズムやコミュニケーション能力といった、人間性豊かな医師が以前にも増して求められる時代となりました。これまでの経験を生かして、患者本位の良き臨床医、研究者育成に努め、学生、研修医に最良の教育環境を用意し、常に改善、改良を目

指すよう心がけたいと存じます。そのために教育センターの千石センター長、蒔田教授、井上講師に教えを請いながら、一般教育、基礎、臨床の各講座の先生方、中央部門の先生方、看護学講座の先生方、看護部の皆さん、コメディカルの方々、事務の方々など多くの他職種の方々と連携を大切に、協力してまいりたいと存じます。これまでも増して皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



マヒドン大学研修プログラムで学んだこと —Elective Program in Tropical Medicineに参加して—

医学科第3学年 室田美晴

1. はじめに

これまで学んできた英語を手段として留学を経験してみたい、海外で医業をする上で重要な知識となる熱帯医学を学びたいという理由から、今夏、タイのElective Program in Tropical Medicineに参加しました。これは、熱帯医学で有名なマヒドン大学で毎年行われている1か月間の短期留学で、今年は本学からは4名が研修をしました。

2. プログラムでの学び

前半2週間は、オーストラリア、台湾、日本からの医学生、医師の方々と共に、熱帯医学の講義や実習、実際に患者さんを診察する病棟回診、バンコク市内の他の施設への訪問を行いました。実習ではマラリアやデング熱等の感染症罹患のため入院されている患者さんの病棟に行き、病態や患者さんへのカウンセリングを通して、何の疾患であるかディスカッションをしました。



前半プログラムの参加者との集合写真

後半2週間は、Travel Medicine科でタイの研修医1～3年目の先生方と一緒に研修を受けさせてもらいました。座学ではDiploma of Tropical Medicine and Hygieneを取得しに来られた先輩医師や公衆衛生について学びに来られた学生の方々と旅行者下痢や高山病などTravel Medicineで扱う症例について授業を受けました。講義中でも生徒が自由に質問する雰囲気があり、相互にコミュニケーションをとりながらの講義は印象的でした。

勉強不足で臨んでしまったこと、医学英語の知識不足から、内容についていけないことが多々ありました。しかし、その度に指導医や参加者の方々が分かるまで説明してくださったお陰で、感染症の知識に留まらず、聴診や打診の方法や確定診断のプロセスに関する理解も深めることができました。

3. おわりに

タイの首都バンコクは乾季から雨季に入ったところで、バケツをひっくり返したようなスコールが印象的な時期の中、日本では体験できない様々な価値観にもまれながら、今後のキャリアを見つめ直す機会を得ました。勉強にとどまらず、多様な背景を持つ方々と出会い、生涯大切にしていきたいつながりを得られたことは、この留学最大の収穫です。最後にこの場をお借りして、本学先生方をはじめ留学を支援していただいた多くの方々に感謝申し上げます。レポートを締めさせていただきます。

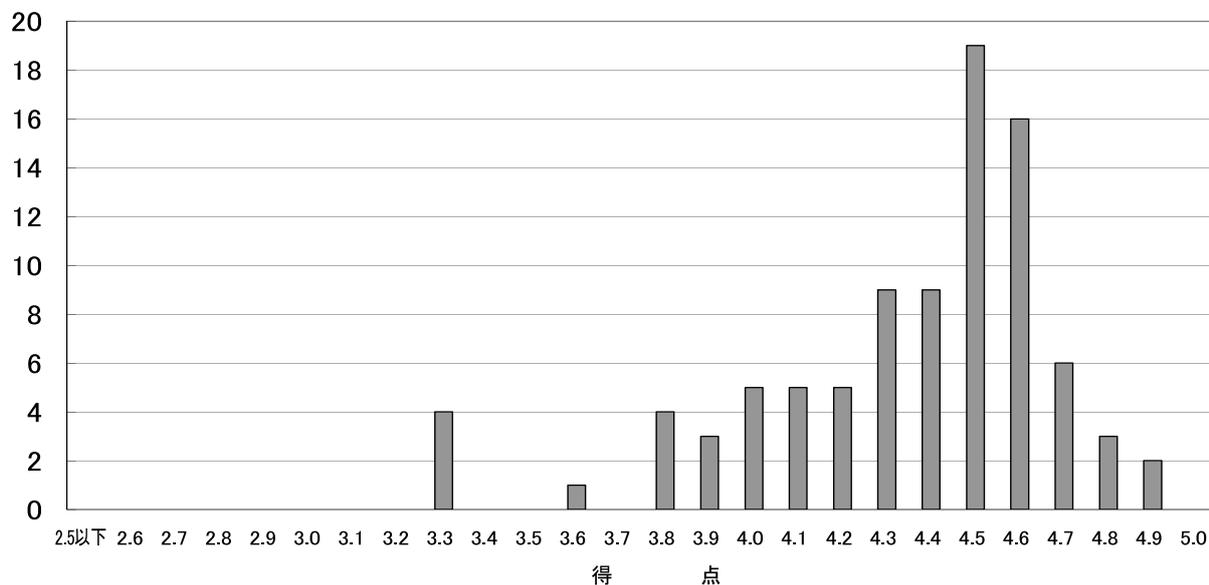


後半2週間お世話になった先生方との集合写真

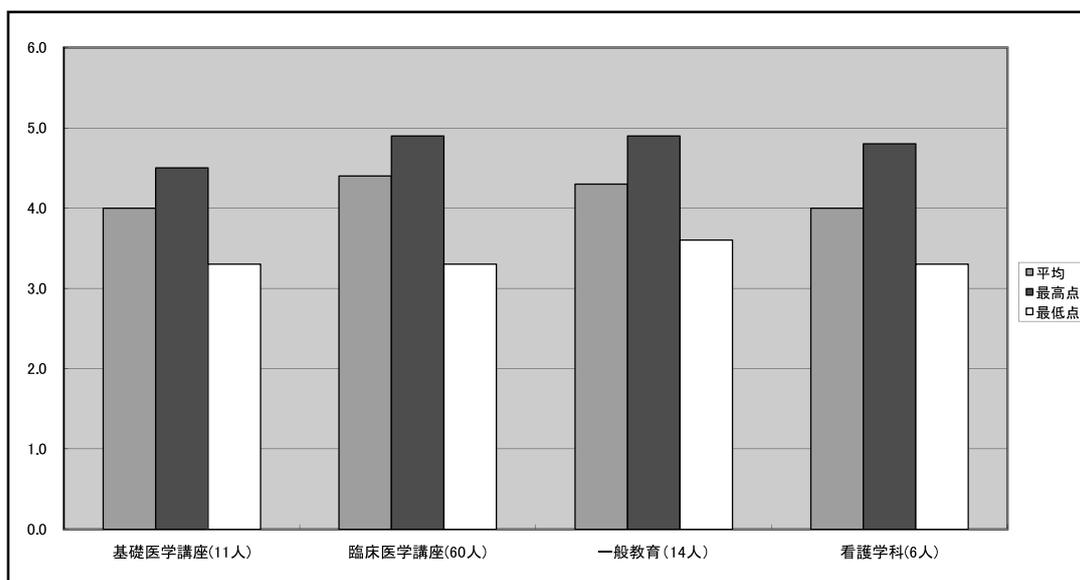
平成28年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	4	3	5	5	5	9	9	19	16	6	3	2	0

(実施人数112名 平均4.3)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：80 配付数：80 回収数：80 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.7	4.0	2.8	3.5	3.5	3.5	3.9

*評価に対するコメント

自然科学入門（生物系） 担当教員

本講義の目的は高校生物の補修である。今年は学生から、「マイクの音量をもう少し大きくしてほしかった」とのコメントが多く寄せられた。例年、マイクの音量は若干小さく設定しているのだが、今年は体調を崩して咳き込む学生が多く、咳で教員の声がかき消されることもあったようだ。総合評価が昨年度（4.3）と比較して下がったのも、上記の理由が1つにあるのかもしれない。学生には余計な負担をかけてしまい申し訳なく思う。

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：28 配付数：27 回収数：24 回収率：88.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.6	3.8	2.3	3.1	3.2	3.3	3.3

*評価に対するコメント

自然科学入門（物理系） 担当教員

総合評価は、昨年より0.7低い3.3であった。評価項目の詳細を見ると、科目内容に関係する問5～問7の評価が昨年と同程度にもかかわらず、学生自身の努力に関係する問1と問4の評価が昨年より0.5程度低下している。担当教員・講義内容ともに昨年度と全く同じです。このことは上記の問5～問7の評価結果に繋がっています。従って、問1と問4の評価結果の低下は学生の努力不足を意味し、その結果、学生自身が満足する理解度に繋がらず、結果的に総合評価を下げることに至ったのではと推測しています。今後の学生の努力に期待します。

科目名：医療概論Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：114 回収数：104 回収率：91.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.7	3.7	2.3	3.4	3.6	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅰ 担当教員

本講義は、医療に通底している哲学的テーマについて検討することで、医療現場で哲学の思考法を使えるようになることを目的としている。科学的知見や経験則を覚えることが主体になってしまっている現状において、医学を学び始める段階で、自分で「考える」ことを経験し、今後の学びの基礎体力をつけることを意図している。テーマの性質上、ひとつの答えはなく、難易度が高いように感じられたかもしれないが、学年があがるにつれて、または臨床に出てから、本講義の意義に気づくことになるだろう。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：115 配付数：115 回収数：112 回収率：97.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.1	3.3	2.5	3.1	2.9	2.9	3.3

＊評価に対するコメント

情報統計学 担当教員

全体評価として昨年度と同程度の評価をいただきました。また問2, 3が比較的高く、問1, 4が低い傾向が続いています。これは予習復習もせず、出席さえすれば単位取得できるという心構えの学生が未だに多いことを示しています。さらに、今年度は1講目での開講時での欠席が目立ちました。昨年度から授業前の予習の必要性を強調しましたが、長い間に培われた慣習を変えるために引き続いて改善する努力をしていきます。情報リテラシーでの授業成果は、大学教育用ホームページにて、各年度の入学者ごとに公開されています。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：113 配付数：113 回収数：102 回収率：90.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.7	3.6	2.4	3.7	3.8	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

地域医療学 担当教員

地域医療学は、北海道の地域医療の一般的な問題をまず理解してもらい、次に地域医療の現場の実際を、現役の地域診療医から教えてもらう。そして最後に地域医療の現場で起こりがちの問題をシナリオにして、学生が自分ならその時どのように対応するのかを発表し合い、自分が将来なすべき医師像について考えてもらうという形式になっている。学生評価も高いので、この形式を維持したい。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：112 回収数：105 回収率：93.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.3	3.4	2.4	3.4	3.9	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

心理学 担当教員

本講義の目的は、医療に必要な心理学の基礎知識を修得することであり、基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の3分野から構成されている。

予習・復習についての評価は2.2, 2.4という低い結果であった。したがって、今後は、適宜宿題を課すなど、学生が講義以外での学習に取り組むための工夫が必要であろう。

一方、出席と努力は4.3, 3.4、難易度と学習意欲についての評価はともに3.9、科目全体の目的到達についての評価は3.4、満足度は4.2であり、全体的にある程度高い結果が得られた。その理由としては、各分野の知識を精査して緻密な講義を行ったこと、授業内容のプリントを毎回配布したこと、心理実験や心理テスト等を適宜取り入れたことが考えられる。今後も、講義内容のさらなる改善を続けたい。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：115 配付数：115 回収数：108 回収率：93.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.2	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

生化学1 担当教員

生化学1は代謝の基本的な部分に関する内容で、2年次では医学部らしい講義と言えます。良かったとする御意見は2つ、小テスト・レポート理解が深まる(3/6)、プリント解りやすい(3/6)でした。改善すべしとするご意見は主にプリント・スライドについて(7/14)、一部の講義分において詰込み過ぎで解りにくい、図・文字の大きさを拡大して見やすくしてほしいというものでした。その他のコメントと合わせて、来年度に向け改善に取り組んで参ります。今回、試験難易度に関するコメントはありませんでしたが、再試対象者は16名とやや多く、高度専門職を目指す日々の積み重ねはもちろん、体調管理の重要性についても認識して頂きたいと存じます。

科目名：機能形態基礎医学I（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：34 回収数：31 回収率：91.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.4	4.1	2.8	3.4	3.8	4.1	3.9

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学I 担当教員

今年度からのカリキュラム改正に伴い、これまで一緒に実施してきた病理学序論を別科目に分離し、解剖学講座だけで本科目を実施することとなった。その結果、組織学の講義の展開に余裕が生まれ、従来、時間の関係でいさか飛ばしすぎた部分をじっくりと解説できるようになった。そのおかげか、総合評価点は昨年度よりやや上昇した(昨年3.5、今年3.9)ので、来年度もこの展開方法で実施する予定である。

科目名：医療社会学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：100 回収率：83.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.3	3.3	2.5	3.1	3.3	3.0	3.1

＊評価に対するコメント

医療社会学 担当教員

学生評価の結果は、科目の内容や授業の進め方が本科目を学ぶ受講生に適していない部分があったことを示していると考えています。特に、人文・社会科学の知識や考え方について、担当教員の想定と受講生の学習状況が少しずれていたようですので、次年度以降は、科目への満足度や学習意欲が高まるように、適切な難易度で授業を行うつもりです。本科目の内容の一部は、履修済みの科目の内容と重複しているという自由回答がありましたが、扱うことが同じでも専門分野ごとに論点は異なります。今後は、授業内でもこの点をより強調したいと思います。受講生の皆さんも各分野の差も意識しながら、学習を継続して欲しいと思います。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：115 配付数：115 回収数：112 回収率：97.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	3.8	3.5	3.3	3.5	3.4	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

生化学2 担当教員

生化学2は生化学1に引き続いて人体を機能させている代謝について、病態と関連付けて紹介しています。主な御意見は、面白い(7/18)、資料不備(3/18)、英語大変(3/18)、課題解答要求(2/18)、聞き取りにくい(2/18)でした。面白い、人体とはすなわち我々の体でその機能する仕組み、病態との関連、コレステロールが増えるとはどういうことなのか、黄疸とは何か、痛風とは、医学生らしい反応にちょっと嬉しくなります。講義資料での詰込み過ぎ、見辛いなど改良して参りますが、次の英語や解答については同意できません。苦勞して時間をかけて辞書や教科書を当たって解く、それが勉強だと思います。臨床では患者さんが自分の病気はこれですと、誤った答えを持って来ることはあっても、正しい答えを持って来てくれることはまずありません。何故、医師が高度専門職と言われるのか、もう一度考え直して頂きたいと存じます。頑張って精進を続け、良い医師を目指して下さい。もちろん、人生のこの時期にしかできないことも多々ありますし、知識だけで良い医師になれるということもありません。存分に旭医を堪能し食り尽くして、良い医師になるための糧として頂きたいと思います。聞き取りづらい点については、マイクの音量を大きめにしておきます。

科目名：医療概論Ⅱ（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：115 配付数：114 回収数：110 回収率：96.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.2	3.6	3.0	3.5	3.5	3.4	3.5

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅱ 担当教員

近年は、研究として行われる医療行為のみならず、新規に保険適応となったばかりの難易度の高い治療や高額な治療についても、十分に倫理面や社会的な影響を考慮して行う必要があります。ここで取り扱った話は医療や臨床研究に関する倫理的・哲学的な内容について正解があるものばかりではありませんので、これからもこの領域についての見識を深めていってください。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：118 配付数：112 回収数：97 回収率：86.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	3.4	3.2	2.9	3.3	3.0	3.4	3.4

＊評価に対するコメント

免疫学 担当教員

問7、8で、いずれも3点台の評価を頂きました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで未だ不確定な要素の多い、難しい学問領域のためかと思われます。また専門の講座もないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。ぜひ学生諸君には、自ら学ぶ姿勢で、講義で疑問が生じた際には、遠慮なく教員へ質問していただきたいと考えます。定期試験の問題のレベルは至って標準的なものです。最低限はクリアしてください。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：129 配付数：128 回収数：126 回収率：98.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.6	4.2	3.9	3.9	4.0	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。多くの建設的なフィードバックをありがとうございました。今後の授業計画に反映していきたいと思います。選択コースに関しては、内容には満足しているというコメントがありました。積極的な授業参加を促すよう、来年度も工夫したいと思います。ガイダンス時のe-learningの説明を詳しくしてほしいとのコメントもありましたので改善したいと思います。非常に優秀な学年でした。期待しています。

科目名：医療概論3（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：129 配付数：118 回収数：112 回収率：94.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.4	4.0	2.9	3.8	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

医療概論3 担当教員

医療概論3は医療人としての素養や意欲の修得を目的としたものです。知識中心でないため予習・復習もし難いと思われ、そうした項目の評価が低めである中で、科目全体の満足度が4を上回り、特に後半に1日かけて行うワークライフバランスの講演・ワークショップは評判が良かったことから科目として一定の役割を果たせたと考えます。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：129 回収数：67 回収率：51.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	3.8	3.9	3.3	3.7	3.8	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

消化器医学 担当教員

問1、問4が点数は低いものの若干の改善が見られており、消化器病に対して少しでも興味を持ってくれる学生が増加したことを歓迎したい。それにも関わらず、問2がやや低下傾向にあり、今後の改善に期待したい。問7、問8は4.0点を超えており、直接授業に対するコメントはなかったことから、学生の満足度は保たれているものと考えられる。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：128 回収数：109 回収率：85.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	3.9	3.9	3.4	3.7	3.7	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

心肺病態制御医学 担当教員

学生評価では、出席率はおおむね良好であったが、科目全体の到達目標の達成には若干課題が残る結果となっている。アンケートの自由記載欄に、我々教員はどのような点を改善すべきかについての建設的意見が記載されていればありがたいところである。しかし、学生評価では、授業の予習・復習はあまりされていない現状も浮き彫りになっており、より良い学習のためには学生側でも努力すべきと思われる。

科目名：衛生・公衆衛生（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：136 配付数：118 回収数：64 回収率：54.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.7	4.2	3.0	3.7	3.8	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生 担当教員

様々な政府統計資料なども含めて幅広く日本と世界の衛生・公衆衛生の状況を理解することも必要となっているので、範囲としてはかなり広がっています。現在の医師は制度を理解し、社会とのつながりも十分理解する必要がありますので、本領域についても勉強を続けて下さい。

科目名：麻酔・集中治療学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：136 配付数：135 回収数：104 回収率：77.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.3	3.9	3.4	3.9	3.9	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

麻酔・集中治療学 担当教員

麻酔・集中治療学は、麻酔・蘇生学および救急医学の2講座で構成されており、主に急性期の侵襲制御に関する内容を網羅している。講義のスライドや資料をペーパーレスに取り組み4年目が経過し、概ね理解が得られるようになった印象である。今後も本講がより中身の濃いものになるよう改善に取り組んでいきたい。

科目名：腫瘍学2（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：136 配付数：136 回収数：105 回収率：77.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.3	3.9	3.3	3.7	3.6	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

腫瘍学2 担当教員

腫瘍学1（3年後期）では腫瘍学の総論、基礎医学的観点からの講義であり、この後を受けて腫瘍学2がより臨床的な観点からの講義で構成されている。今後の学習意欲を増すか？全体として満足できるか？の項目はいずれも3.9であり、改善の余地がありそうである。しかし学生からのコメントは2人のみで、ひとりには肯定的な意見、一人は系統講義と重複しないようにとの希望であった。少数の意見のみであり、評価が十分でない理由を、先ずは明らかにする必要がある。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：136 配付数：136 回収数：116 回収率：85.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.2	4.0	3.6	3.8	3.7	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

臨床放射線学 担当教員

画像診断においては、全領域の疾患を対象としており、十分な時間をかけられないのが現状で、重点ポイント、エッセンス中心にせざるをえない状況です。学生諸君には、教科書による個人での勉強を期待します。さらに、5、6年時実習による、画像診断の実際を学んでいただきたい。

放射線治療、核医学に関しても同様に臨床実習が重要となってきます。今後も飛躍的に重要性が伸びる分野であり、一般診療医がカバーできる範囲には限界があり、その道を極めることを期待します。

科目名：生殖発達医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：138 配付数：138 回収数：137 回収率：99.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.0	3.9	3.5	3.8	3.7	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

生殖発達医学 担当教員

授業全体の満足度が4.0であり、授業内容、講義の進め方等は、妥当であったのではないかと判断しました。今後、より多くの学生が、小児から成人に至る過程の重要性やその過程への興味を感じることができるよう授業を展開してゆきたいと思えます。

科目名：法医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：136 配付数：136 回収数：116 回収率：85.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.3	4.1	3.6	4.1	4.2	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に分類され、臨床医として、検案（検屍）業務を依頼された際の基本的知識、外因死に関わった際の注意点を理解し、屋内や屋外で亡くなっているヒトを診て、検屍（検案）ができることを目標としている。その講義が、学生に興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：整形外科学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：136 配付数：136 回収数：122 回収率：89.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.2	3.9	3.5	3.9	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

整形外科学 担当教員

回収率は89.7%で、昨年（23%）より増加したが100%に達しない。学生自身の努力を表す問1－4は、平均3.75±0.3であり、昨年（3.73）と比較して、学生の講義に対する関心は改善されていなかった。講義構成や内容を表す問5－8は、平均3.9±0.1（昨年4.1）であった。今後は、学生自身が講義にその価値を見だし、我々が臨床医として後輩に多くの期待を抱いていることが伝わるような、臨場感のある講義や内容の充実を図る。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.8	4.0	3.0	3.7	4.0	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

看護社会論 担当教員

今年度から担当した科目であり、受講生の反応を確かめつつ授業を進めました。
問6、問7、問8の評価結果をみると、科目内容は適切であり満足できるものであったといえるかと思えます。ただ、授業時間外の予習や復習を十分に指導できなかったことが、問1や問4の評価結果に表れたと考えています。今後は、授業時間外の取り組み方も念頭に置き、授業を改善してゆくつもりです。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：61 配付数：51 回収数：49 回収率：96.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.8	4.8	3.7	3.4	3.5	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

発達心理学 担当教員

学生自身についての評価では、「出席」、「努力」、「復習」が4.8、3.7、3.4と高い結果であったが、「予習」の評価は1.8と低かった。また、達成と難易度については3.5、3.9とある程度高い評価であった。したがって、今後は学生に対する予習・復習の指導等の工夫が必要であろう。
一方、意欲と全体の満足度については4.0、4.1という高い評価が得られた。これは、基礎心理学と発達心理学の知識を有機的に連動させて講義を構成したこと、前半に実習形式の授業を取り入れたこと、スライドやビデオを多用したこと、講義内容のプリントを毎回配布したことによると考える。次年度も資料内容の改良を続けたい。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：55 回収率：93.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.7	4.8	3.7	2.4	3.9	4.0	4.0	4.5

＊評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

この教科は、予習や復習を必要としない授業を行っています。そのため、問1、4の回答は低い評価値になるかもしれません。今年度の履修者も大変熱心に受講していました。「授業が楽しかった」とのコメントを沢山頂きました。新しいことを学び習得し成長する過程は楽しいはずですが、最近の調査によると、学生のPCを使った情報リテラシー能力の低下が問題になっていますが、本学では非常に高いレベルを維持しています。今後は、到達目標の達成（問5）を目指して更に改善して行きたいと思えます。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：62 配付数：62 回収数：53 回収率：85.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.6	3.6	2.7	2.9	2.5	3.1	3.2

＊評価に対するコメント

看護化学 担当教員

年々“甘えた”学生が増えているように感じる。「速すぎてついていけない」「難しすぎる」「問題集が欲しい」という意見があったが、一方で、「予習をしない」「復習をしない」傾向が大変大きく、当然結果として「到達目標を達成できない」「難易度が適切でない」ということになる。勉強しなくても困らない程度なら大学で教える必要はない。また看護化学の内容が将来の科目や要求される能力に直結していることを再三説明している。それでも勉強しないのなら、難しいと感じることも、単位を取得できないことも自然な結果である。質問に来るようにと、これも再三言っているが、ほとんど来ない。そしてそれが試験結果にも結びついている。成績が振るわない学生は、大学は何をすることで、大学生は何をするべきかを考えて下さい。

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：48 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.8	4.0	2.3	3.5	3.9	4.1	4.4

＊評価に対するコメント

医療史・医療哲学 担当教員

「なぜ人は人をケアするのか」「病気とはなにか」「自律の尊重とはなにか」など、看護に底流する哲学的課題について、学生自らが考える形式の講義を展開した。発言の回数など積極性も踏まえて成績判定をした。医学の視点を織り込むと興味が増すようであったので、検討したい。看護という職をする以上、生涯通じて必要となるテーマであり、繰り返し思考を深めて自分のものにしてほしい。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.5	5.0	4.6	4.6	4.1	4.0	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

看護学概論 担当教員

「看護学概論」は、最初の看護専門科目として保健・医療・福祉の現状と課題を踏まえながら、看護を実践的学問として考えていく科目です。興味・関心あるテーマを取り上げながら、バズセッションや発表を行い、できるだけ双方向性を意識した授業内容としています。満足度は4.6、他も4.0以上と評価されたことは嬉しく思います。事前・事後学習は提出を課し、単位の実質化を図り、学習内容の定着にもつながっていました。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：45 回収率：73.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.7	3.8	2.7	3.5	3.4	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

生命科学 担当教員

総合評価はこの数年ほぼ一定している。ただ、今年度の問5～8では、問6が3.4とやや低くなったことから、講義内容が難しいと感じる学生がこれまでより若干増加しているようである。一方、講義に対するコメントでは「内容がわかりやすく、意欲的に学べた」という相反する意見が複数あったので、学生間での成績には開きがあると推察される。特に、難しいと感じる学生のサポート体制を強化していきたい。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：55 回収率：90.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	3.6	2.8	3.4	3.2	3.3	3.5

＊評価に対するコメント

看護基礎物理 担当教員

総合評価は昨年度と同じ3.5でした。項目別では問7（学習意欲）の項目が一昨年度より上昇し続けていることが朗報です。問1（予習）と問4（復習）の項目も昨年に続き上昇しています。両者は相乗効果をもたらすものと考えています。学生意欲を更に引き出すには、教員にも講義の工夫が必要でしょう。今後も講義の改善に努めていきます。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：51 回収率：83.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.7	3.9	2.9	3.5	2.7	2.9	3.2

＊評価に対するコメント

統計学 担当教員

社会人（医療人）としての常識程度の統計学の基本の習得を目的としていますが、計算、数字に対しての既得意識に個人差があるようです。昨年度に引き続いて筆記試験を実施し、今年度も厳しい全体評価をいただきました。本講義を除けば、量的記述の基礎体力となる、計算、数字に触れる機会が看護学科ではなくなってしまうので、責任をもって取り組みたいと思います。授業中、フォローアップでの意見も参考にして質を高めていきます。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名：リハビリテーション看護学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：41 回収率：67.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.6	3.5	2.6	3.4	3.6	3.5	3.4

＊評価に対するコメント

リハビリテーション看護学 担当教員

予習・復習に関する点数が低かったのは、教科書を購入する学生が少ないこととも関連していると思われる。リハビリテーション専門職に講義をしてもらい多角的・専門的な学習ができていたので、それらを体系的に理解できるようコーディネーターのさらなる工夫をしたい。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：34 回収率：55.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	3.9	3.7	2.8	3.5	3.8	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅰ 担当教員

精神看護学Ⅰは、対象を社会的側面まで深めて看護を理解することをねらいとしております。自由記載では興味・関心が高められたとの内容が示されおりポジティブな評価をもらいました。一方で、昨年度の授業評価を振り返り、資料の分量も考慮しましたが、総合評価は昨年と同様になりました。やや一方的な授業になっていることが考えられます。来年度は双方向の授業を心がけ、学生の考えを引き出せるようにしたいと思います。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：56 回収率：91.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.2	4.9	4.6	4.8	4.0	3.9	4.4	4.3

＊評価に対するコメント

看護過程論 担当教員

科目の難易度が3.9、あとは4点台であることより評価としてはまずまずでした。自由記載には個人学習の重要性、資料および模擬患者演習の有効性への評価とともに教員からの助言（グループワークや提出物）についての意見がありました。教員間は連携を密にし、指導の一貫性と公平性を担保できるよう努力はしていますが、学生やグループの学習状況を考慮しながらの指導では違いが生じてしまうこともあります。オフィスアワーも2度設けていますが、教員の助言・指導がさらに必要な場合は遠慮せずに個人でアポイントメントを取って下さい。

科目名：病態学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：57 回収率：93.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.3	4.1	3.4	3.9	4.2	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

病態学 担当教員

リニューアル後2年目となる病態学ですが、昨年同様、講義⇒確認テスト⇒確認テストのレビューという流れで展開しました。本年度は時間配分に留意し、後半もこのサイクルを維持できました。また病理学総論終了後に中間試験を導入し、テストを2段階にしました。昨年に比べおおむねポイントが上がっているので、難易度の設定や講義・試験の方法などは適切であったように思われます。来年度は、より効率よく学べて、達成感の得られるような内容を心掛けて、講義を企画したいと思います。最後に温かいコメントをくれた学生さん、ありがとう。励みになります。

科目名：疫学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.0	3.4	2.7	3.4	3.0	3.2	3.2

＊評価に対するコメント

疫学Ⅰ 担当教員

疫学Ⅰも統計を基礎としています。疫学も保健統計同様難しいという意見が多くみられました。方針としてはそれほど難易度は上げないように打ち合わせています。試験による評価は保健統計以上によく書けている学生が多く、こちらも全体的には理解している者が多いと判断しています。

科目名：保健統計Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.0	3.4	2.8	3.2	2.9	3.1	3.1

＊評価に対するコメント

保健統計Ⅰ 担当教員

健康科学講座の先生とオムニバスでの講義でしたが、全体的に講義が難しいという意見が多くみられました。今後は打ち合わせを行い、用語の解説をつけるなどより理解しやすい講義になるよう工夫したいと思います。試験については全体的によく書けており、講義内容はよく理解している者が多いと判断しています。

科目名：在宅看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：55 配付数：55 回収数：27 回収率：49.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.8	4.1	3.6	3.7	3.4	3.6	3.6

＊評価に対するコメント

在宅看護学 担当教員

在宅看護学の授業評価の中で、介護保険制度や障害者総合支援法など、制度についてもっと詳しく教えてほしいという意見がありました。在宅では複数の制度を利用している方が多くいます。今後は、学生の皆さんがイメージしやすいよう、事例などに組み込みながら制度の紹介をしていきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

科目名：英語文献講読（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：55 配付数：55 回収数：52 回収率：94.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.5	3.8	3.8	3.4	3.3	3.0	2.9

＊評価に対するコメント

英語文献講読 担当教員

自習に多くの時間をかけて、看護・保健・医療の英文読解に挑戦されていることがわかります。その成果は、身近には実感したい点があるようです。学生時代に広く英語文献になじむことが看護・保健・医療の分野でエビデンスベースドナーシングを実践できる力を養い、文化的差異を理解できる力となります。今後はより実践に役立つ内容を工夫して各担当者の講義の魅力を高めていきたいと思っております。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：55 配付数：55 回収数：40 回収率：72.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	3.7	3.8	3.4	3.6	3.2	3.3

＊評価に対するコメント

がん看護学 担当教員

学生の皆さんは、がん看護に関する関心を年々高めて受講していることがわかってきました。また、受講後にはがん患者さんとその家族の理解が大変ポジティブに変化している大きな成果を実感しています。今後は、若年がん患者などの看護といった皆さんの関心にこたえられる講義内容について魅力ある講義に努めていきたいと思っております。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：55 配付数：53 回収数：38 回収率：71.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.0	4.6	4.0	4.1	3.6	3.8	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅱ 担当教員

学生の予習・復習、講義参加状況を示す問1～4の項目はすべて「4.0」以上であり、学生が課された事前課題の意図を良く理解して予習に取り組んでいたことがわかる。その一方で、科目全体の到達目的の達成に関する問5は他項目と比較して「3.6」と低いことから、学生の講義理解を促進するような事前課題の内容の検討が必要であるといえた。

科目名：高齢者看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：55 配付数：55 回収数：51 回収率：92.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.5	3.9	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

総合評価では、学生はおおむね満足していたと言える。到達目標の達成はやや低いので、今後は到達目標をさらに明確にし、講義時間の最後に自分で講義内容のまとめをする時間を取り入れるなどして達成度を高める工夫をしたい。意欲の向上については、アクティブラーニングの手法を取り入れる時間を増やし、主体的な学習を促すようにしたい。

科目名：保健医療福祉システム論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：55 配付数：55 回収数：48 回収率：87.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.2	3.8	3.6	3.5	3.7	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

保健医療福祉システム論 担当教員

この科目は医療を中心に学ばれている皆さんが、保健と福祉の役割を理解し、保健医療福祉を有機的につなげる、将来の展望を考える力を培っていただきたく立ち上げました。各専門領域、最前線で活躍されている方々の講義で構成され、それぞれの講師から学び取るには苦労があったこと、法律や経済のことなど一見看護に関係ないように見えモチベーションがあがらないこともあったと思います。しかし、これは将来チームで働く皆さんにとって重要な学びにつながっています。今後も広い視野で社会を見つめ、人々の生活と健康を看護の立場から支えるためにこの科目で学んだことが活かされるよう期待しております。

科目名：国際保健看護論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：48 回収数：33 回収率：68.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	3.9	4.1	3.9	4.0	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

国際保健看護論 担当教員

授業開始には国際保健看護は単に国際協力のこと、と混同していた。そこで、本科目のねらいに「看護の基本となるものの考え方や哲学、看護職の立ち位置をもう一度確認してみよう」を付加してみた。終了後のレポートなどから「看護の対象は人間である」ことを基盤に看護職のグローバルな視点とは何か、質の高い看護を行うには国際的な感覚が必要であること、など看護について広い視野で各自、夢を描くことができた。すぐに始まる臨地実習に活かしてみようという気構えが伝わって来た。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：49 回収率：87.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.4	3.7	2.6	3.7	4.2	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

医療安全論 担当教員

医療安全論は医療安全の基本的な考え方、国内外の過去の医療事故事例、事故防止と安全文化の醸成等について資料や視聴覚教材を用いて教授し、グループワークによる事例検討も実施した。学生による授業評価は、昨年度満足度が低下したため内容の見直しを行い、「全体としての満足度4.3」「今後の学習意欲4.0」ともに上昇した。課題レポートにおいては医療における安全の重要性を再認識し、卒業後の取り組み姿勢を述べているレポートも多くみられた。また授業の開講時期については、第4学年の臨地看護学実習がほぼ終了した時期であり、より理解が深まり適切であると考えられる。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：108 回収率：96.4%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.8	4.4	4.3	4.5	4.4	4.5	4.4	4.1	4.4	4.1	4.1	3.7	4.0	4.3	4.4	4.3	4.3

*評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

本年度の基礎生物学実習は昨年と同様にA組、B組それぞれ14回ずつ実施し、実習期間の前半は光学顕微鏡の使用法の習得、後半からはグループで行う実験的な内容としました。昨年より低めの評価をいただきましたが、昨年と同様に低評価である問13「課題・レポートの量が適切であったか」については、必要最低限とされる内容を用意しており、提出期限もできるだけ学生の要望を反映したはずなので、改善すべきところがみつかりません。一部の学生にとって「今後の学習意欲を増す内容でなかった」（問14）ようですが、この問いは実習内容の難易度（問12）とも関係すると思われるので、よりわかりやすい説明・解説を心がける所存です。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：102 回収率：91.1%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.8	4.4	4.0	4.1	4.0	3.9	3.7	3.9	4.0	3.6	3.6	3.2	3.4	3.8	4.1	3.9	3.7

*評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価は昨年同様3.7だった。しかし、A組では3.5、B組では3.9で0.4ポイントの開きがあった。同内容の実習を開講にしているにもかかわらず、このような差が生まれた理由は不明である。問13（提出物の量）と問14（学習意欲）にわずかではあるが改善の兆候がみられた。しかし、問1（予習）と問12（難易度）の項目は、過去最低の評価です。学生の“学ぶ姿勢”に問題があったものと考えている。実習の理解度を上げるには、教員の努力だけでは不可能です。学生には、今後もより一層の努力を期待します。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：113 回収数：112 回収率：99.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.8	4.3	3.9	3.9	3.8	3.7	3.2	3.9	4.2	3.9	3.7	3.3	3.5	3.8	3.9	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

生化学実習 担当教員

生化学1、2における生化学分野の講義が第2学年前期に集中することにあわせ、その過程で実習を展開するものとしてカリキュラムが計画されている。またチュートリアルIIにおいて生化学実習内容の基本知識を学び、生化学1およびチュートリアルIIの本分野の試験を実習直前にこなすことにより、実習実施に不可欠な知識を確実に身につけていただき実習に取り組めるように目論んでいる。自らの取り組み姿勢（問1～3）の高い評価値（4.5、4.8、4.3）に顕著に現れたように、皆さんが自ら興味を持って積極的に実習に取り組んでくれたことは教員としてたいへん喜ばしい。他の評価項目（実習計画・内容・環境、総合評価）については、問8（指導担当者間の連携）と問13（提出物の内容・量）が3.2、3.3と低値であった以外、おおむね良き評価を得た。指導担当者の指導能力および指導担当者間の差異・連携の適切性について、「緻密な連携による丁寧な実習指導」を目指し改善を積み重ねてきたが、評価点（問7、8：3.7、3.2）および自由記載コメントにもあるように、今後さらに改善が必要であると判断している。一方、皆さんが実験や解析を進める上で直面する数々の問題については、まずは自ら解決するための思考と試行を实践するよう、今後も心がけてほしい。今年度より本実習は医大祭の直前のスケジュールに組まれているが、「医大祭準備のために落ち着いて実習に取り組むことのできない仲間がいた」とのコメントも多く寄せられた。臨床医としてまた医学研究者として将来の活躍を期待される皆さんには、高い目的意識と意欲をもって勉学に取り組み、そして、問題解決能力と姿勢を高め論理性や創造性をさらに培っていくよう期待したい。そのためのお手伝いが、学生と教員の接触の場である実習を通してできれば教員としてたいへんありがたいと考えています。

科目名：形態学実習Ⅰ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：119 回収数：56 回収率：47.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.7	4.2	4.2	4.4	3.6	4.4	4.1	4.3	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	4.3	4.3	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅰ 担当教員

今年度からのカリキュラム改正に伴い、組織学実習と骨学実習（頭頸部以外）を形態学実習Ⅰとして統合した。各実習の内容や実施方法、評価方法については、原則的に、これまでのものを踏襲しているため、実習の再編・統合に関して学生から特に異論は寄せられていない。来年度も丁寧な指導と公平な成績評価を心がけ、この科目を実施する予定である。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：112 回収数：82 回収率：73.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.6	4.2	4.0	4.3	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

免疫学実習 担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の御尽力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げていますが、総合的には4.1の評価を頂いており一応合格点ではないかと思いましたが、グループの人数に関して多すぎるという意見を頂きましたが、講座持ち出しの費用も多く、教員の数の限界もあります。ご理解頂ければと考えます。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：129 回収数：101 回収率：78.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.6	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

微生物学実習 担当教員

本実習では、これまででも、実習オリエンテーションで学生諸君に「実習内容の事前確認」をするように指導してきましたが、これを確実に実践してもらうために始めた「予習レポート提出」方式が5年目となりました。その結果、ほとんど全ての学生は予習してくるようになりました。さらに、今年は、予習レポートの点検作業を早く済ませ、実習説明の早い段階で予習レポート返せるようにしましたので、それを使って実習に臨めるようになったと思います。また、昨年よりもさらに実習手技等に関する説明を短縮しましたが、それでもまだ説明が長いとするコメントが数件寄せられていますので、来年もさらに短縮しようと考えています。

本年度は、時間を持て余して、集中できていない学生がほとんどおらず、実習自体はスムーズに行われた印象があります。その結果として、実習全体の満足度は4.6と高い評価をされたのかもしれませんが、学生諸君と教室員の協力に感謝致します。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：129 回収数：102 回収率：79.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.6	4.4	4.3	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

寄生虫学実習 担当教員

寄生虫感染症に対する適切な診断・治療を行うには、寄生虫種の同定が必要です。従って、本実習では、寄生虫標本や病理標本の肉眼と光学顕微鏡を用いた形態観察を通し、寄生虫の形態学的特徴や病原性発現を理解してもらうことを目標としています。今年度の実習全体の満足度は4.4と高く、適切な質と量であったと思われます。今後も、学生の知識欲を高めるような実習にしたいと考えています。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：126 回収数：108 回収率：85.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.7	4.5	4.2	4.4	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	3.6	4.2	4.0	4.2	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

生理学実習・演習 担当教員

例年と同様に課されたレポートの量に対する評価は3.6と低かった。自由記載の欄でも、レポートの量が多いと感じているとともにレポート提出期限が短いと感じている学生が多いことがわかる。また、同様の形式で実習を開始して以来、年を経るとともにその要望が多くなっている。しかしながら、限られた時間の中で一つ一つの実習結果を適切にまとめる能力を身につけることは意義深いと考えている。多くの実習項目は評価を得ており、総合評価は、4.2と昨年と同様であった。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：128 回収数：101 回収率：78.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.6	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	4.3	4.5	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5

＊評価に対するコメント

薬理学実習 担当教員

薬理学実習は、生体に投与した薬物が効いていることの実体験、さらには、得られた結果から妥当な薬理作用を考察し、講義で得た知識を定着させることを目的としている。評価結果から、この実習が多くの学生に満足頂けたものと思っている。しかし、発表会では細かい内容の修正を十分にできなかったため、今一度、薬理学の復習をし、自分の理解に間違いがないか確認して頂きたい。この実習が、諸君の知識定着の一助となれば幸いである。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：129 配付数：129 回収数：55 回収率：42.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.9	4.7	4.4	4.7	4.2	4.4	4.3	4.4	4.3	4.0	4.1	4.2	4.2	4.4	4.5	4.5	4.3

＊評価に対するコメント

病理学実習 担当教員

本年度は昨年度とほぼ同様のスケジュールで実習を行ったが、実習試験の結果からすると、我々が意図していた理解度まで到達させることができなかつたように感じている。来年度は、病理学が独立科目として開講された後の初めての实習であり、バーチャル顕微鏡もより有効に活用しながら、プログラムを改善して臨みたい。学生からは、試験が難しかったとのコメント以外に、正常組織との対比をして欲しい、実習終了から試験までの期間を長くして欲しいなどの意見があり、できるだけ対応していきたくて考えている。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：50 回収率：82.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	5.0	4.8	4.7	4.6	4.1	4.5	4.1	4.7	4.8	4.1	4.1	3.2	4.2	4.4	4.6	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

この科目は、これまで経験してきた座学とは違い皆さんにとって、とても厳しい学習だったと思います。皆さんは毎回予習し、真面目に講義演習に出席しました。予習するためにほぼ毎回事前課題を出していますし、復習するために事後学習を課しています。結果、提出物の量・内容は適切かで3.2という評価でした。自由記載からはその必要性が理解されているのではと推測します。ほかの記載内容に関しては次年度に向けて検討したいと思います。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：51 回収率：83.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.8	4.7	4.5	4.4	4.5	3.9	4.6	4.7	4.2	4.2	3.4	4.1	4.4	4.6	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅲ 担当教員

「基礎看護技術学Ⅲ」では診療に関連した基本的な看護援助技術の安全・正確な実施・適切な態度の習得を目標としています。演習の満足度は4.2、学習意欲増加が4.1の評価、定期試験の平均点は80点以上でした。皆さんの積極的な学習の取り組みの成果と考えます。学内演習であっても最低限の知識が定着していることを前提とし、講義時に個人テストを行い、その結果を学内演習へ参加・実施の基準としました。課題の量・内容の評価は3.4、個人テストの基準や演習方法について意見がありましたので、目標達成のための可能な対策について検討していきます。

科目名：小児看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：55 配付数：54 回収数：52 回収率：96.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.2	4.5	4.0	3.5	3.2	4.3	4.2	4.0	4.3	4.4	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

小児看護学演習 担当教員

評価は概ね4.0台であり、学生にとって満足できる内容であったと考えます。しかし、問7「教員の教育力」3.5、問8「教員間の連携」3.2と極端に低い結果となりました。その中で、問11「技術の修得状況」は4.0という状況です。今後も教員の教育力を高めながら、学生の主体的で積極的な学習姿勢の継続を期待します。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：55 配付数：55 回収数：42 回収率：76.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.7	4.5	4.3	3.5	3.7	4.1	3.7	4.1	4.0	3.8	3.8	4.1	4.0	3.7	4.2	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ 担当教員

この科目は、自分たちに与えられた課題を自分たちで調べ、デモンストレーションまで行うという技術を習得するためのものです。教員のデモンストレーションがなく不安であったという意見がありましたが、自分たちで調べ、実践するという事で技術が定着していくものと思います。不安だったという意見はありましたが、皆さんのデモンストレーションは大変素晴らしいものでした。今後も皆さんの自主的な学びに期待しています。

科目名：高齢者看護学演習
(看護学科第3学年前期／必修)

履修者数：55 配付数：55 回収数：21 回収率：38.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.6	4.2	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	3.8	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

高齢者看護学演習 担当教員

全体の満足度は高いが、指導者数の適切性に関する得点が最も低いので、今後人員配置の検討や少ない人員でも十分指導できるような工夫を検討したい。回収率が38.2%と低いのでこの評価が学生全体の評価とは解釈できない。回収率を上げる方策を考えたい。

科目名：成人看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：55 配付数：53 回収数：32 回収率：60.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.7	4.6	4.5	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4	4.0	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

成人看護学演習 担当教員

成人看護学演習は、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける看護場面を設定し、看護技術や看護過程、カンファレンスの技術等を演習する。全体的に得点は高く、問11は4.0と中では得点は低いが、裏を返せば、技術を修得することへの難しさを感じたのではないかと考える。

科目名：精神看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：55 配付数：55 回収数：39 回収率：70.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.7	4.5	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

精神看護学演習 担当教員

精神看護学演習は、最大で1日6コマ、週に2回行うこともあり、学生にとってハードだったと考えられます。自由記載では、もう少し時間が欲しかったという意見もありましたが、ほとんどの学生が授業内容を評価するものでした。その理由として、学生の主体性を重視した演習になっていたことが考えられます。昨年度の評価で「当事者とかわることができればよい」と意見をもらい、今年度は当事者のミニシンポジウムを取り入れ、非常に好評でした。これからも学生と共に作り上げていく演習を目指していきたいと考えています。

科目名：母性看護学演習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：54 回収数：29 回収率：53.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	5.0	4.9	4.2	4.2	4.5	4.5	3.3	4.5	4.2	3.5	3.4	3.1	3.9	4.2	4.4	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

母性看護学演習 担当教員

回収率51.8%で昨年より8ポイント低下したが、半数の学生の意見として分析した。全体の平均は4.1、満足も4.0で昨年と同じであった。技術習得の向上を目的として、今年度より技術試験を実施した。この実施により、事前の予習、参加態度、関連科目（実習）内容との対応が取れる3項目の評価が昨年より上昇したと考える。要望として挙げた参考資料・看護過程の資料の事前配布は、来年度より実施する。また、教員間の連携を適切に保つよう事前調整を十分行うよう努力する。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
④ やや思う (良い)
③ どちらとも言えない (普通)
② あまりそう思わない (あまり良くない)
① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：58 回収率：95.1%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.0	4.5	4.1	4.5	4.4	4.0	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5

*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ 担当教員

実習の満足度は4.5、看護職者を目指す意欲は4.4の評価でした。実習ならではの学びが得られた結果であると受け止めています。事前に健康調査をし、実習病棟とも連携を図りましたが、初めての臨地看護学実習の緊張のためか体調不良となる方も複数おりました。安全への配慮は4.4の評価でしたが、我々が学習環境を整えるだけでなく、皆さん自身で健康管理することも看護者としての責任です。十分留意しましょう。実習で出逢った患者さん、見学した看護実践場面から学んだことを念頭に、学内での学習にも関連させていくことを期待しています。

科目名：高齢者看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：54 回収数：30 回収率：55.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.7	3.8	4.2	4.2	4.1	4.0	4.2	4.1	4.3	4.4	4.1	4.4

*評価に対するコメント

高齢者看護学実習 担当教員

全体評価は4.4と学生の満足度は高く、他の項目の評価も概ね高かった。この実習によって看護職者を目指す意欲が十分に高まったかについても、4.1であり良い実習であったと思う。ガイダンスに関するものが他と比べ低かったが、今年度から実習要項を変更して改善を図っている。回収率が55.6%であり、以前よりは高くなっているが、提出しない学生の評価が気になるところである。回収率を上げる方法の検討が必要である。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：32 回収率：57.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.3	4.6	4.7	4.5	4.6	4.7	4.6	4.6	4.7	4.4	4.7

***評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅰ 担当教員

学生評価は4.0台であり、学生にとって概ね満足できる実習であったと考えます。この実習は、健康な小児を理解することが目的です。社会の少子化、核家族化により、学生の多くは子どもと接する機会が少ないまま本実習を履修することになります。その中で、学生は実習指導者や保育園児に助けられながら学びを深められたようです。この実習が今後の学習に繋がることを期待します。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：23 回収率：41.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.0	3.5	4.3	4.7	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	4.5	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅱ 担当教員

学生評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足のできる実習であったと考えます。その中で、問2の担当教員と実習指導者の連携については3.5という評価でした。実習の場は常に流動的で、変化に富んでいます。実習する学生が困らないように、担当教員と実習指導者の連携を強化しながら学習環境を整え、教育に当たっていきいたいと考えます。

科目名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：24 回収率：42.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.4	4.6	4.7	4.4	4.7	4.6	4.7	4.4	4.5	4.6	4.5

***評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅰ 担当教員

成人看護学実習Ⅰは、第3学年後期から第4学年前期にかけて行う慢性期看護の実習である。場所は内科病棟（6階西と9階西）にて、受け持ち患者を持ち看護過程を展開する。

問3、問4、問6、問7、問8は得点が高く、学生は、学内での学習と臨床実習を結びつけ、臨床の場をより身近に感じながら実習できていたのではないかと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：31 回収率：55.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.5	4.6	4.5	4.8	4.8	4.6	4.7	4.7	4.7	4.5	4.7

***評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅱ 担当教員

今回の結果だけを見ると、各項目の評価はすべて4.5以上であり、問12が4.7であることからこの実習企画に対する学生の満足度は高かったと言える。しかし、回収率が55.4%で例年よりも低いことを考えると、学生全体の評価とは言いにくい部分がある。今後は、評価票の回収率を上げるための配布時期や学生への声掛けなどの工夫が必要である。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：30 回収率：53.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.9	4.8	4.9	4.9	4.9	4.7	4.5	4.8	4.9	4.6	4.8

***評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅲ 担当教員

成人看護学実習Ⅲは、第3学年後期から第4学年前期にかけて行う外来機能の実習である。場所は診療外来や看護外来、点滴センターや内視鏡室、入退院センターや地域連携室など多岐にわたる。外来の特殊性から考えると得点が低くなりかねない問2、問3、問5、問6、問9、問10の得点が高い。今後も学生の満足度が高い実習を継続していきたい。

科目名：精神看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：22 回収率：40.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.7	4.7	4.8	4.9	4.9	4.7	4.8	5.0	4.9	4.8	4.9

***評価に対するコメント**

精神看護学実習 担当教員

問12の総合評価が4.9と高い評価を受けました。特に「教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった(5.0)」であり、学生には周りの目を気にせず対象者に向き合って欲しいとの教員のねらいが達成されました。この満足度の高さは、臨地実習施設の関係者の協力があったことだと振り返っています。これからも学生が看護に集中できる環境を大切にしていきたいと考えます。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：54 回収数：18 回収率：33.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	3.9	4.4	3.9	4.7	4.4	4.2	3.9	4.2	4.4	4.2	4.4

***評価に対するコメント**

母性看護学実習 担当教員

回収率3割であり、学生の3分の1の意見として受け止めるが、平均4.2であり、昨年とほぼ同じであった。しかし、教員・病棟実習指導者の助言に対しては4.7と高得点であり、実習に対する満足度は4.4と昨年よりわずかに上昇している。これは指導する側の力だけでなく、学生のやる気と主体性があったからこそこのポイントであると考えられる。対象の経過が早い実習であるが、学生が主体性を発揮できるよう、意見を反映させたいと考えている。この評価を通して、忌憚なく且つ建設的な意見を寄せていただきたい。

科目名：在宅看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：17 回収率：30.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.4	3.3	4.4	4.6	4.0	4.2	4.5	4.6	4.3	4.4	4.5	4.4

***評価に対するコメント**

在宅看護学実習 担当教員

施設と教員との連携が取れていないというご意見がありました。市内3か所のステーションを回っていますので、他施設の都合や、学内授業などによりカンファレンスの時間の調整などで皆さんにご迷惑をおかけした部分があると思います。頂いたご意見は次年度の実習の参考にさせていただきます。ご意見ありがとうございました。

平成28年度 外国人留学生交流事業が実施されました

平成28年度の外国人留学生交流事業が、10月14日（金）・15日（土）の2日間の日程で、本学に留学している学生と研究者として在籍する外国人及び関係職員の5カ国、計9名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうとともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と職員との交流を図ることを目的としたものです。

当日は、中富良野町のカントリーテラス・コロポックルにて、いちご狩りとジャム作りを行いました。いちごをたくさん摘み、ゆっくり煮詰めていきます。さわやかな甘みのある、美味しいジャムになりました。

夕方に宿泊施設である星野リゾートトマムに到着し、会話を楽しみながらおいしい夕食をいただきました。夕食の後には交流会が実施され、留学生の出身国の食事や特色、日本での生活な

どの話をして盛り上がりました。普段は話をする機会の少ない留学生と教職員との交流が非常に深まりました。

翌日は、早朝に宿泊施設の敷地内にある雲海テラスへ行きました。晴れており雲海はありませんでしたが、綺麗な日の出を見ることができました。気温は-2℃と寒く、暖かい国の出身者にとっては貴重な経験となったようです。

午前中はふらのワイン工場を見学し、富良野市の特産品であるワインの製造工程について学びました。午後には、美瑛町の青い池とファームズ千代田ふれあい牧場を訪れました。青い池では、幻想的で美しい景観を楽しみました。留学生同士の仲も深まり、会話や写真撮影などをしながら過ごしました。ファームズ千代田ふれあい牧場では、馬や羊などの動物に癒されました。午後4時頃に本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。





学生表彰式

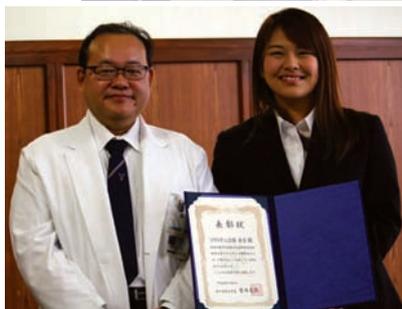
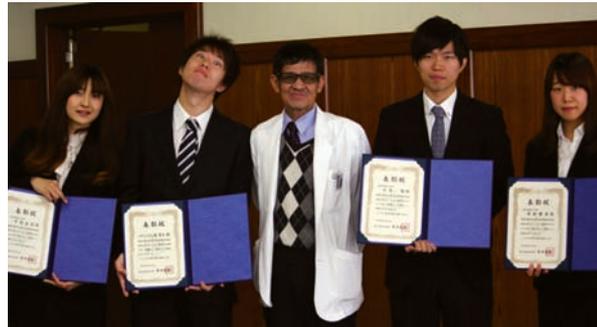
平成28年10月25日（火）午後12時10分から、本学第一会議室において、課外活動又は学術研究活動で特に顕著な成果をあげた学生及び学生団体に対する学生表彰が行われました。

表彰式は、役員及び顧問教員の列席のもと、吉田学長から7団体、個人9名に対し表彰状の授与と記念品の贈呈が行われ、被表彰者の栄誉を称えるとともに、更なる活躍のための激励の言葉が贈られました。被表彰者の一覧は以下のとおりです。

＝課外活動による表彰＝

団体名・氏名	大会等名	成績
競技スキー部女子	第58回東日本医科学生総合体育大会	女子総合優勝 (2連覇)
準硬式野球部	第59回東日本医科学生総合体育大会	優勝
バドミントン部男子	第59回東日本医科学生総合体育大会	男子団体優勝 (5連覇)
柔道部男子	第59回東日本医科学生総合体育大会	男子団体戦 準優勝
男子バレーボール部	第59回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
ソフトテニス部女子	第59回東日本医科学生総合体育大会	第3位
AMU DANCE CRANK	全道大学最強ダンスバトル「アルキタ杯」	アルキタ特別賞 (審査員特別賞)
医学科第4学年 澁谷 匠 (陸上競技部)	第68回北海道学生陸上競技対校選手権大会 (北海道インカレ) 男子円盤投	第1位
	第59回東日本医科学生総合体育大会 男子円盤投	第1位
	第28回北日本医科学生総合体育大会 男子円盤投	第1位 (大会新記録)
医学科第5学年 片寄 駿 (バドミントン部)	第59回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン競技男子ダブルス	優勝
医学科第6学年 高橋 裕貴 (バドミントン部)	第59回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン競技男子ダブルス	優勝
医学科第3年 澤柳 摩耶 (バドミントン部)	第59回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン競技女子ダブルス	第3位
医学科第6学年 中村 友紀 (バドミントン部)	第59回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン競技女子ダブルス	第3位
医学科第5学年 飯田 敏史 (柔道部)	第59回東日本医科学生総合体育大会 柔道競技男子軽中量級	準優勝

団体名・氏名	大会等名	成績
医学科第4学年 高村 貴子 (競技スキー部)	2016スカイランニング・ユース世界選手権 イタリア大会 スカイレース	銀メダル
	2016スカイランニング・ユース世界選手権 イタリア大会 コンバインド	銀メダル
	第23回日本山岳耐久レース (24時間以内) 「長谷川恒男CUP」女子総合	第3位
	蔵王スカイランニング2016 ZAOスカイレース女子総合	第1位
	蔵王スカイランニング2016 ZAOパーティカルレース女子総合	第3位
	第43回全日本クロスカントリー旭川大会 一般女子の部	第1位
	上田パーティカルレース太郎山登山競争 猿飛佐助コース	第2位
	第58回東日本医科学学生総合体育大会 スキー競技女子クロスカントリー3km	第1位
	第58回東日本医科学学生総合体育大会 スキー競技女子クロスカントリー5km	第1位
	第58回東日本医科学学生総合体育大会 スキー競技女子複合	第2位



＝学術研究活動による表彰＝

氏 名	功 績
医学科第6学年 武藤 理	トロント小児病院附属研究所留学中に「グリオブラストーマに対する抗がん剤研究」に従事し、共著者として貢献した研究論文「Small molecule epigenetic screen identifies novel EZH2 and HDAC inhibitors that target glioblastoma brain tumor-initiating cells」が、Oncotargetに掲載された。また、生命科学で行った研究内容が筆頭著者として生化学会で発表された。
医学科第4学年 倉 麻里香	化学教室において生体における自己組織化の現象について研究を行ってきた結果、新規の研究結果を得ることに成功し、その研究成果を日本物理学会2016年秋季大会において「霜降り牛肉の脂肪交雑とフラクタル次元」のタイトルで発表、そして第67回コロイドおよび界面化学討論会において「ウシ筋肉内脂肪組織のフラクタル次元」のタイトルで学会発表を行った。



AMU DANCE CRANK 自主公演

10月22日（土）15時から旭川市アピスホール大ホールにおいてAMU DANCE CRANKによる自主公演『the CRANK ～Connection～』が開催されました。この日は、最低気温0℃、冷たい雨の降る肌寒い一日でしたが、寒さを吹き飛ばすほどの力強くキレのあるダンスパフォーマンスが繰り広げられ、一人一人の全身からみなぎる若いエネルギーで会場を沸かせてくれました。

今回のテーマは「connection（ダンスでつながる）」。AMU DANCE CRANK所属の42人のほか、名寄市立大学、北海道教育大学旭川校、札幌医科大学の学生、そして道内で活躍されているPastQやWho's nextなどのゲストも含めた総勢82名の感動的なパフォーマンスは、会場に集まった多くの観客の心を捉え、場内が一体となって楽しみました。ヒップホップ、ハウス、ロックのほか、ワック、ヴォーグ、チアといった多彩なジャンルのダンスも取り入れられ、見ているこちらも、思わず体を動かしたくなるひと時でした。次回も楽しみにしています。



大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施

毎年、旭川医大IFMSAの学生達が「旭川医科大学大学の森 みどりの保育園」において行っている「ぬいぐるみ病院」が、今年も7月21日（木）に行われました。「ぬいぐるみ病院」とは、子ども達が日頃大切にしているぬいぐるみや人形を「患者」、園児を「親」、学生を医師や看護師、薬剤師、診療放射線技師などの医療職者に見立てた「お医者さんごっこ」を通して、子ども達の医療に対する恐怖心を軽減したり、自身の身体や健康に興味を持ってもらったりすることを目的としています。

園児達は各々ぬいぐるみに付き添い、名前や年齢、どこが具合悪いか、など医師・看護師役の学生に伝え、その後、検査や治療をしてもらいます。「熱がある。」と患者を連れてきた子には、「体温を計ってみましょう。」「お薬を飲ませてあげてくださいね。」そして、「足を怪我しちゃった。」という子には、「レントゲン室でレントゲンを撮ってみてみましょう。」「包帯を巻いておきますね。」等といったやりとりが行われます。診察が終わると、実際に聴診器をあててもらい、自分のドクンドクンという心音を聞き、興味津々の子ども達の姿がありました。



課外活動物品の購入補助を行いました

この度、課外活動に係る備品購入申請のあった14団体のうち、5団体（将棋部、弓道部、美術部、J A Z Z研究会、ギター部）に対し、備品購入の補助を行いました。

今回は、予算の都合もあり申請のあった全団体の要望に応えることはできませんでしたが、重要かつ緊急性を考慮し、バスドラムやギターアンプなどを購入しました。

来年度も学生団体への物品購入補助を行う予定です。購入補助を希望する団体は、今後お知らせします時期に申請してください。

室内合奏団 秋のコンサート

去る11月20日（日）に病院玄関ホールにて、室内合奏団による「秋のコンサート」が開催されました。演奏は3部構成による全10曲で、金管八重奏や弦合奏の美しい旋律で観客の心をつかみ、構成の途中では、くまのプーさんなど可愛らしい着ぐるみをきた学生による演奏で、終始会場を飽きさせることはありませんでした。

入院されている方々やお見舞いにお越しの方々、そして友人たちが会場に詰めかけ、美しい音色に酔いしれながら、終わったあとには優しいものが心に残される、素晴らしい演奏会でした。



ギター部&J A Z Z研究会 合同クリスマスコンサート

11月27日（日）13時から、ギター部とJ A Z Z研究会による合同クリスマスコンサートが病院ロビーで開催されました。まだ11月……ちょっと気が早いようですが、「Can't wait until Christmas!」という副題のもと、多くの入院患者さんやお見舞いの方々、そして沢山の学生が集まり、一足早いクリスマスの雰囲気を与えてくれました。

ギター部は、スタジオジブリ映画『猫の恩返し』の主題歌となった「風になる」や2016年内をもって解散することとなったSMAPの「世界に一つだけの花」などの6曲を演奏、J A Z Z研究会は、ボサノバの代表曲「イパネマの娘」や日本のジャズバンドPE'Zの「Akatsuki」を含む5曲を披露しました。

最後は、ギター部とJ A Z Z研究会が合同で、サンタクロースやトナカイに扮し、「We wish a Merry Christmas」や「Happy Xmas(War is Over)」などを演奏及び合唱し、笑顔いっぱいのうちに無事コンサートが終了しました。



冬季休業期間中の事故防止について

今年も残りわずか数週間。学生には、待ちに待った冬季休業がやってきます。

冬季休業中は、帰省や新年会など楽しみの多い時期ですが、外出する機会や飲酒をする機会が増えることから、事故等に巻き込まれやすい時期でもあります。学生の皆さんは、本学学生としての自覚を持ち、以下のことに注意し、有意義な年末年始を過ごしてください。

1. 交通事故について

今年度に入り、本学学生による自動車事故が多発しています。特に冬道は、凍結路面やわだちでのスリップ等、危険がいっぱいです。運転する際は、自身の運転技術を過信せず、時間等に十分に余裕をもって安全運転を心がけましょう。また、体調不良時の運転や、他人の自動車への安易な同乗は避けるなど、事故を起こさない、事故に遭わない対策を講じてください。

2. 飲酒運転の禁止

飲酒運転は悪質な犯罪であるとの認識をしっかりと持ち、二日酔い運転を含めた飲酒運転の根絶を図りましょう。飲酒した人の車に同乗したり、車を運転する可能性がある人への酒類の提供や車の提供も犯罪となります。

3. イッキ飲み・アルハラ禁止

未成年の飲酒やイッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶしは、非常に危険な行為であることを認識し、絶対に行わないでください。

～アルハラの定義5項目～（イッキ飲み防止連絡協議会のページより）

① 飲酒の強要

上下関係・部の伝統・集団によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むこと。

② イッキ飲ませ

場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。

③ 意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して、飲み会を行うことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。

④ 飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。

⑤ 酔ったうえでの迷惑行為

酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゆく行為。

4. 薬物乱用の禁止

昨今「危険ドラッグ」の乱用は大きな社会問題となっています。好奇心や誘惑から、薬物（ドラッグ）を買わない、使わない、かかわらないという強い意思を持ってください。

学生団体代表者との懇談会を実施しました

10月17日（月）17時30分から臨床第3講義室において、体育系35団体、文化系31団体、合計66団体の各代表者及び学生会長との懇談会を実施しました。この懇談会は、課外活動を行ううえで注意してもらいたい事項や守るべきルールやマナーについて再認識してもらい、それらを部員に周知徹底してもらうこと、同時に、学生からの要望や意見を把握することを目的として開催され、大学からは千石教務・厚生委員会委員長と川村保健管理センター長が参加しました。

大学からの注意事項は以下のとおりです。今一度、一人一人、自身の行動を見直してください。

1. 学内でのルール・マナー

- ・屋内における走行練習での衝突事故の防止
- ・部活動で発生したゴミは放置せず、ゴミ箱又はゴミ袋へ捨てること
- ・構内での駐車場利用ルールを守ること

2. 病院でのルール・マナー

- ・院内ローソンのイトイン・コーナーでは、病院利用者に配慮した行動をとること
- ・患者情報の取扱いについては十分注意すること

3. 学外でのルール・マナー

- ・近隣店舗での迷惑行為は行わないこと
- ・遠征での公共交通機関を利用する際は、節度ある行動をとること

4. 団体内での配慮について

- ・部員への活動参加は強制しないこと
- ・医療者を目指す者として、部員の体調や試験前の活動について配慮すること



安否確認システムによる訓練を実施しました

「津波防災の日（11月5日）」を中心とした期間に、安否確認システムを導入している道内の国立大学と合同で、学生・教職員を対象に「安否確認システム」による訓練を実施しました。

本学では、危機管理体制の強化を図ることを目的として、地震等の発生又は災害による大規模な被害が予想される場合に、学生及び教職員の安否状況を迅速に把握し、災害時の安全確認を速やかに行うための一手段として、平成26年度から安否確認システムを導入しています。

今回の訓練は、安否確認システムに登録してあるメールアドレスに訓練用の安否確認メールが配信され、回答用のURLをクリックし、Webから安否状況を回答してもらうというもので、平成26年度の導入以来、初めての訓練となりました。

今回は訓練のため、保護者のメールアドレスへのメール送信は行われませんでした。実際に災害が起こった場合には、皆さんから送信された安否状況の回答は、大学に送信されると共に、登録してある保護者アドレスにも送信されます。まだ登録が済んでいない場合には、速やかに登録するようにしてください。

また、保護者の方につきましても、携帯の迷惑メール対策で指定受信設定をされている際は、@anpi.mailds.jp及び@asahikawa-med.ac.jpのドメイン指定受信設定をされるようお願いいたします。安否確認システムの詳細は、<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/>をご参照ください。

第165号表紙

今月号の表紙は、「旅と鉄道研究会」から提供いただいた1枚です。他の学生団体からも多くの応募があったのですが、今回は、全国的にも話題となったJ R北海道の留萌本線留萌～増毛間「お別れセレモニー」の様子を選ばせてもらいました。

1921年（大正10年）の開業以来、95年の歴史を刻んだJ R留萌線の留萌～増毛間（16.7km）は、12月4日（日）に最終運行日を迎えました。1981年制作の映画「駅 STATION」の舞台にもなった増毛駅に、ラストランを見送ろうと多くの鉄道ファンで賑わっている様子がみてとれます。

学生支援課では、皆さんからの写真を募集しています。

課外活動での様子、旅先での1枚など気軽に応募してください。

ご提供いただける方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。



大学構内における駐車について

例年雪深い旭川ですが、今年は観測史上最も早く根雪になるという記録的な年となりました。さて、雪が降ると毎年話題に挙がるのが、駐車場問題です。

大学駐車場の区域線が雪に隠れてしまい、線に従って駐車することが難しくなっています。許可車両にて通学している学生は、車両間隔を詰めて駐車するよう協力願います。

また、大学から何度も注意喚起を行っているにもかかわらず、駐車禁止場所への駐車や、路上駐車が後を絶ちません。

すべてが学生の車両とは言えませんが、確実に学生が運転している車両も数多くあり、そのほとんどが不許可車両であるのが現状です。

そもそも、本学は公共交通機関を用いての通学を基本とし、自家用車での通学は、一定の要件を満たし、かつ、駐車場管理委員会により許可された車両しか本学駐車場を利用できないルールがあります。

また、大学中央玄関前などの駐車禁止区域は理由があって駐車禁止にしていますし、本学構内は緊急車両が走行する可能性が高いので、路上駐車は迷惑極まりない行為です。

過去には、不適切な駐車場利用等により、嚴重注意を行った事例もあります。

平日夜間や土日祝日専用のパスカードは、平日日中のパスカードより安価で購入でき、通学距離等の許可要件もありませんので、そういった制度を有効に活用願います。

交通安全！！

残念なことに、今年は例年より、交通事故・交通違反の報告件数が多いです。

幸い、命を奪った、または、命を落とした、という報告はありませんが、一歩間違えればそうなっていてもおかしくなかった事故の報告もされています。

運転していても、歩いていても、交通法規を遵守し、交通安全に努めなければならないことは当然ですが、特に本学学生は、人の命に携わる医療職者となることを目的に勉学に励んでいるわけですから、殊更に注意しなければならない立場にあると大学側は考えています。実際に、交通ルールに限らず、ルール・マナーの徹底についてはことあるごとに注意喚起を行っています。

また、便利な道具は、扱い方を間違えれば非常に危険な道具となります。

自分のためにも周りのためにも、運転をする際には、天候・路面状況・交通状況を的確に把握するとともに、自身の運転技術を過信せず、時間と心に余裕をもって走行するようにしてください。

また、長距離運転をしなければならない時には、適度に休憩を取るなど、自身の体調にも気を配ることも忘れずに。

教 員 の 異 動

平成28年11月10日	昇任	教育センター (医学教育分野別認証・新専門医制度担当) 学長補佐 (医学教育分野別認証・新専門医制度担当) 兼務発令 (学長政策推進室・第一内科) インスティテューショナル・リサーチ室(IR室) 副室長(教育)	教授	佐藤伸之
平成28年11月10日	昇任	病院臨床研究支援センター	准教授	松本成史
平成28年12月1日	昇任	病院麻酔科蘇生科	講師	神田浩嗣
平成28年12月8日	昇任	病院第一内科	講師	藤野貴行
平成28年12月8日	昇任	医学部放射線医学講座	講師	山品将祥
平成28年12月8日	昇任	病院放射線科	講師	中島香織

今後のスケジュール

【冬季休業】

医学科第1学年、看護学科第1学年	12月19日(月)～1月10日(火)
医学科第2学年、看護学科第2学年	12月19日(月)～1月13日(金)
医学科第3学年	12月14日(水)～1月6日(金)
看護学科第3学年	12月12日(月)～1月6日(金)
医学科第4学年	12月19日(月)～1月4日(水)
看護学科第4学年	12月12日(月)～1月3日(火)
医学科第5学年	12月26日(月)～1月6日(金)

※事務局は、12月29日(木)から1月3日(火)まで休業します。

- 1月5日(木) 医学科第4学年CBT試験
- 1月13日(金) 大学入試センター試験設営
- 1月14日(土)・15日(日) 大学入試センター試験
- 1月28日(土) 医学科第4学年OSCE試験
- 2月10日(金) 医学科第4学年 白衣式
- 2月11日(土)～13日(月) 医師国家試験
- 2月16日(木) 助産師国家試験
- 2月17日(金) 保健師国家試験
- 2月19日(日) 看護師国家試験

